

私 の 工 夫

積極的な対話から
学びが深まる道徳教育

岡山市立高松中学校

教諭 中井 由香



1 はじめに

私が本校に転勤してきた平成30年度に、岡山市教育委員会の道徳授業のプロデューサー事業に取り組みこととなった。道徳が特別得意だったわけでもない私が道徳の係として、次年度からの教科化に向けて、研修を担当することとなった。正直なところ、自分に務まるのだろうかと気が重かった。講師として大学の先生をお迎えし、各学年で指導案の検討や、授業公開をする中で、授業の進め方、評価の在り方などの研修をした。

また、大学の研究室までお邪魔して、研修の打ち合わせや指導案

の勉強会をさせていただいたこともあった。最初は気構えていたことが、具体的にとても丁寧な指導をいただき、充実した時間となった。大変なことも多かったが、次年度に向けてのアンケートを実施したところ、引き続き研修をしたいという意見を多くの先生方がもっており、2年次にも取り組むこととなった。

2年間の研修で学んだ中で、得たスキルや、普段の授業に生かしていることをいくつか紹介したい。

2 実践

(1) 主発問の精選

水曜日は本校の道徳授業日。月曜日辺りから、今週の教材の進め方、主発問を何にするかななどの相談を職員室でし始める。大学の先生に全教員が指導を受けたことにより、主発問の精選が、教材のもつ道徳的な価値に迫るために大変重要であることが分かり、発問を工夫する姿勢が身についたように思う。また、発問の精選によって生まれた時間的な余裕を、他の人の意見を知り、考える時間に充てることで、深い学びに繋げることができたように思う。

(2) 少人数グループでの話し合い活動

「主体的・対話的で深い学び」にしていくために、授



4人班

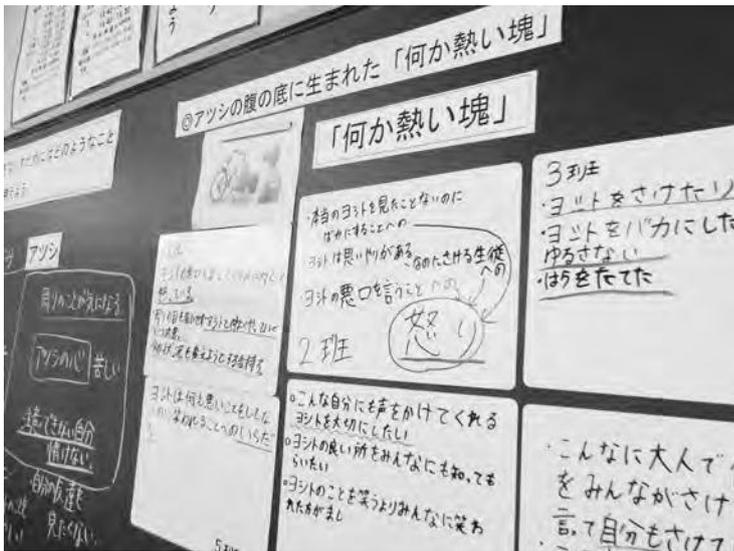


3人班

業の中に、話し合いの機会を設けている。まず、自分の考えを書くことで、自分と対話する。次に、友達と意見を交換する。という流れで、3〜4人の学習班で話し合い活動を行っている。机を隙間なく合わせていたが、コロナ禍の中では、間隔がとれるように机の向きを工夫して合わせ、中心に三角形や四角形ができるような隊形にしている。生徒たちは、自由な雰囲気の中で意見を交換しあい、考えを広げたり、深めたりすることができているように思う。

(3) ホワイトボードの活用

少人数グループでの話し合いの中で出た、個々の意見やまとめた意見をホワイトボードに書き、一斉に黒板に貼ることにより、学級全体での共有ができるようにしている。また、黒板に貼ったグループの意見に、教師が赤や青のマーカーで線を引いたり、文字を囲んだりすることで、視覚的にさらに



ホワイトボード活用

捉えやすくなるようにも心掛けている。ホワイトボードを活用することで、板書の時間を短縮することもでき、その分、話し合い活動の時間を長くとることができるようになった。何度か取り組みを重ねていくうちに、生徒も文字を見やすい大きさに書いたり、要点をまとめて書いたりするなどのスキルが徐々に身についてきたように

(4) ローテーション

授業の実施

1学期は担任が担当学級で授業を行っているが、2学期からは、学年団の教員全員で、ローテーション

を行っている。各教員がそれぞれ1つの教材を担当し、ローテーションで全クラスの授業を行うというものである。1つの教材の授業を何度も行うことで、教材研究を深めることができる。授業を担当しない時間は、他の教員の授業を参観することができ、そのため、気づくことも多く、お互いにより勉強になっている。担

任は、自分のクラスを客観的に見ることでもでき、評価に繋げることが出来る。また教員間の会話も自然と多くなる。「今日は〇〇先生の道徳だ!」という声があがるなど、生徒たちにとっても、新鮮で楽しみな取り組みとなっている。

3 おわりに

2年の研修を終えた後も、職員室で道徳の授業に関する会話が飛び交うのが日常的になった。私の学年団には初めて担任をする先生もいるので、授業の準備の会話も頻繁に行われている。また、準備をして臨むからこそ振り返りの会話も盛んになる。先生方との対話は、とても大切であると感じている。今後も私たち教員が、日常的に主体的・対話的な研修を重ね、生徒が意欲をもって深い学びとなる授業づくりに取り組んでいきたい。